

Title	イスパニヤ展望
Author(s)	國澤, 慶一
Citation	大阪外国語大学学報. 1 p.186-p.193
Issue Date	1952-05-30
oaire:version	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/80092
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

イ ス パ ニ ャ 展 望

國 澤 慶 一

Glimpses of Spain

KUNISAWA Keiichi

Extract

The Spaniard says that the Peninsula is shaped the same as a "bull's skin" cut open. The 580,983-square kilometer Iberian Peninsula is composed of 492,243 square kilometers which are Spain's and the rest which are Portugal's. Imagine Spain by means of scattering pearls on velvet, as the saying is. Spain's and mountains, next to Switzerland in height, often exhibit to us the soaring cragged mountains capped with snow. The chain of the mountains from the Cantabrians in the north to the Sierra Nevada in the south are very impressive and the Sierra Nevada Mountains towering behind Alhambra Palace, Granada, are the most unforgettable landscape in my life.

The natural barrier which marks the boarder-line of France is the great Pyrenees formed by a 430-kilometer mountain range stretching from the picturesque Mediterranean coast to the rolling Biscay Bay. Roughly speaking, Spain's topography is divided into three sections: Central Plateau, Drainage Basin of the Ebro River and that of the Guadalquivir River. Speaking of the central plateau, it is extremely cold in winter and terribly hot in summer. Rain scarcely falls in this section in the dry season: even a few drops of it are carefully used for irrigation by ditching. Consequently, there are not so many trees for timber use and there grow grasses between rocks, almond in full bloom in spring and oaks. The forest of ever-green oaks planted to supply pigs with nuts are found here and there. Roadside poplars, forests along a river, a group of sheep guarded by the shepherd far off beyond a hill — they look like a painting by Murillo. Wheat fields wave with gold spreading over the distant heights. Beyond, a brook, and the church-bell of a small village are in sight. This depicts the scene of the Castile Plateau. The Atlantic Ocean is rough beyond the Cantabrian Mountains. Much rainfall causes the trees to thrive on the mountains, but no wheat grows in this section. A road is running between corn-fields and a loaded ox-cart is passing on it. A lighthouse on a headland is seen at a distance. In fact, lighthouses stand here and there, for the Biscay Bay has a lot of reefs and

small islands. The zig-zag coastline like the edges of a saw and castie ruins remaining on headlands make everything more interesting. Andalusia in the Peninsula's southern part is called "Paradise" because of the abundant farm crops which grow on its fertile soil. Two-meter cactuses in bloom bear red fruits. Houses dug out of the hillsides are seen. The melody of the gipsy haunts one's memory.

地理的に見てイスパニヤはヨーロッパ大陸の西南端、大西洋と地中海の間に突出してゐるイベリア半島にある。

イベリア半島は不規則な五角形でイスパニア人はこれを闘牛の皮を擴げた形であると言つてゐる。面積約 530,983 平方キロメートル、其の内 492,243 平方キロメートルはイスパニヤに、殘餘がポルトガルに所屬してゐる。イベリア半島にはイスパニヤ及ポルトガルの外にアンドラといふ小共和國がありジブラルタルの岩山が英國の領地である。

イスパニアのイベリア半島に在る領土及島嶼（バレアレス群島及カナリア諸島）地方を合算すると面積 505,720 平方キロメートルになる。

イベリア半島の北、佛蘭西との間に幅 430 キロメートルのピレネー山脈があり、南、アフリカ大陸との間には幅 14 キロメートルのジブラルタル海峡があつてアフリカに對してゐる。イスパニヤの南端タリファでは晴れた日にアフリカの海岸を見ることが出来る。これはイスパニアがアフリカに極めて近いことを立證し、昔からアフリカの影響を受け、多くの東洋の文化がアフリカを通じてイスパニアに傳はつたことを物語つてゐる。

イスパニアの二つの正面、地中海と大西洋、この地中海を通じてイスパニアに福音が傳えられ、後に大西洋を通じて新大陸に之れを移したとも考えられる。

地中海を渡つて來た東洋の文化はグラナダのアルハンブラ、セビリヤのアルカサール、コルドバのメスキタの様な壯麗、雄大、高雅な建造物を殘してゐる。又イスパニア語の中には多くのアラビア起源の語（例えばアルマセン、アルコール、アランブラ、セロ、アセイテ等）が用いられてゐる。

紀元 16 世紀、17 世紀はイスパニアの全盛時代で、フェリエ二世、カルロス五世の時代には、文學、藝術も興隆しアメリカ大陸の發見による國民の活動もあり國威が全世界を風靡した時代であつた。こうしてイスパニア本國で約 2,800 萬、全世界で 12,000 萬以上の人々がイスパニア語を話してゐる。

さてイベリア半島の北緯は最北端のエスタカ・デ・バレスに相當するところが 43 度 27 分 25 秒で最南端タリファの小嶋のあるところは南緯 35 度 59 分 50 秒である。

東經3度19分12秒、クレウスの岬のところ。西經9度18分19秒、トリニャナの岬のところである。

イベリヤ半島は歐洲で瑞西に次いで平均高度の高いところである。約660メートルの平均高度を持つてゐる。

イベリア半島は地勢上三つの地域に分たれる。

(a) は中央高原でカスチリヤ地方、エストレマドゥラ地方、ガリシア地方の一部及ポルトガルを含み20萬平方キロメートル以上を占める廣大な地域である。この中央高原は古い地層によつて形成された原始的な土地の核心であり、カンタブリア、アスチュリア及ガリシアの山々が北部にあり、イベリアの山々が東に、シエラモレナの山脈が南にある。

(b) はエブロ河の流域地方であつてカスチリヤ地方の中央高原を中心にして北方にあたる地方である。平均高度250メートル、ピレネー山脈イベリアの山々、カタルニア地方の海岸の連山によつて限られてゐる。普通アラゴン地方の低地とかエブロ河の凹地とか言はれてゐる。

(c) はシエラモレナ山脈によつて北部を、ペニベチア山脈によつて東部及南部を限られた平均高度100米のグアダルキビルの流域であつてアンダルシア地方の大部分を占めてゐる。

この外に太西洋岸及ルンタニアの周縁の地即ポルトガルがある。これはイベリア半島の西部にあり、多分海中に没したであらう海岸山脈によつて限られた土地である。今日この海岸山脈の痕跡はポルトガルのベルレンガ島やフアリオエンスの島によつて見ることが出来る。

このポルトガルは暫く措いてイスパニアの土地について考えると、中央高原といはれるカスチリアの高原は夏熱く冬は嚴寒で一般に「3ヶ月の地獄9ヶ月の冬」と言はれる程で、首府マドリイも海拔650メートルの高さにあり、冬は底冷えのする寒さで十一月から暖房装置が必要になり、程近いグワダラマ山脈には初夏まで雪が積つたのが融けない有様である。一方朝夕は涼しいが夏の眞晝は熱風街路を吹く乾燥し切つた氣候で口腔も鼻孔もからからになる程である。街路樹の根本に溝を掘つて水道の水を流し込み枯れるのを防ぐといつた有様、近傍の野原の草も殆んど枯れて、僅に残つた芝や草を羊の群が丹念に探しながら放牧する羊飼に追はれて行く繪の様な景色も見られる。

エブロ河の流域も氣候はカスチリア地方と同様に嚴しく、平均高度250メートルである。私がサラゴサに行つて大學の先生と話した時もササゴラ地方は夏熱く又強風の吹く日が多いとの事であつた。

南部グアダルキビル河の谷間は平均高度100メートルであり他地方より低い土地で、セビリアは海拔10米、グラナダは海拔689メートルで冬も割合に氣候溫和、理想的な土地とされてゐる。

このアンダルシア地方はイスパニヤ全國の6分の1を占める廣大な地方である。夏は40度、時には50度にも上る暑熱の日がある。農作物の收穫も多い。アンダルシア地方の橄欖の實からとるオリーブ油又葡萄酒、バレンシア地方のオレンジといった農産物や果物を輸出して西班牙の必要とするガソリンや機械類を輸入する資金にしてゐるのでイスパニヤにとつてはアンダルシア地方の農業は重要な産業である。

このグワダルキビル河の谿谷にあるコルドバ、セビリア、カデス等の都市は昔から繁昌してゐたところでローマの植民地時代にも華美な生活や祭典を思はす舞踊や歌舞音楽が盛に行はれた股賑を極めた都市であつた。

前述の如くエプロ河の谿谷は高度150メートル、グワダルキビル河の谿谷は100メートル、中央高原は850メートルの平均高度を持つてゐるので、イスパニヤ全土の氣候は多くの變化がある。海岸地方は氣候も溫和である。中央高原の山脈は太古から風、雪、雨、霰による風化作用によつて山肌も圓く突起も緩漫丘陵もなだらかである。雨量の少い太陽の照りつける原野には廣げに小麦畑が連なりエンシナの林が見える。櫻の花に似たアルメンドラの花咲く春の日のカステリヤの曠野の景色は獨特なイスパニヤの景色である。

カステリヤ高原から流れ出る河にはドエロ河、タホ河、グワデアナ河がある。南部のグワダルキビル河は水流豊富でセビリアまでも大洋航路の船が遡航して來ることが出来る。

タホ河はカステリヤ高原を流れるときには、雨量の多い時は別として大して水量が豊富でないがポルトガルリスボン附近では河口が灣の如く大西洋通ひの巨船が河岸に横着になつてゐる。

中央高原の川には水溜が所々に出来る如く流れが少い川もあり、ために瘴氣熱の發生を見るところもあり、乾燥した時にはアルメリアの如く種でも發芽せず田畑に植物が殆んどないところがある。

北部カンタブリアの海岸は時に雨多く冬には雨に閉された街路を見るためにミラデロ（出窓）が各家に造作されてゐる程である。カンタブリア海に注ぐ河は流路の短い川である。此等の川の水を水力電氣のために、又灌漑のために利用することがイスパニヤの大きな問題の一つである。

地中海岸のバレンシア地方ではローマ時代から運河を造つて果樹園や農園の灌漑に利用してゐる。

カステリヤ高原に降る雨量も相當あるが、この水を止めて利用する方法が如何にして計畫されるかが重要なのでこれには多量のセメント及機械を必要とすることである。然し最近汽車でカステリヤ高原を旅行して見てセメントの大きい溝が構築されて乾燥した土の間を水が流れてゐる工事を目撃してカステリヤの住民の努力の程を見ることが出来たのは私の此度の旅行の一つの收穫

でもあつた。

事實2900萬の住民の出生率が年々増加、死亡率が減少してゐる即ち、1910年には26%が1950年には10%になつてゐることを思い、乾燥したカステリヤの原野を如何にして灌漑するかが重要な問題である。

乾燥した地方には葉の少い香の良い樹木や草がある。馥郁として香高きトミリアと言ふ草をサランカ大學の講義の終了式に大學の廊下に撒いてあつた事を思い出しても見た。

峨々として聳える岩山の蔭に香の良い草が咲いてゐる。エンシナの林、羊の群、皆カステリヤらしい景色を表はしてゐる。

事實、アラゴン地方、バリャドリイ地方、サモラ地方、マドリイ附近、グワダラハラ及トレドの近傍アンダルシア地方には荒れ果てた草原地帯がある。

カステリヤ地方はアドベといつて日光で乾燥した煉瓦（爐で焼いたものではない）で造つた家が多く、丘陵の麓の町は土と同じアドベの色に遠くから見ると丘も町も土色一色に見える。私はサンタンデールの夏期大學への途中バリャドリイからパレンシアを過ぎてこのカステリヤの町々を車窓から見る事が出来た。然しこのカステリヤ地方の人々はアドベの家に住んでゐるが、極めて清潔であつて家の内部が整頓され、冬はグローリアと云ふ一種の暖房装置があつてオンドル式に麥藁を燃料にして熱氣を部屋の腰掛台の中を通す様に工夫して家を暖かい愉快なものにしてゐる。アンダルシア地方の家は石灰で外部も内部も塗つた眞白い家、中庭をもつた美しい家がありパレンシア地方のバラカと言ふ農家は芦の莖を編んで葺いた屋根、白い壁、棟木の上の銀色の十字架と言ひ、感じの良い農家である。此等は私には印象深いイスパニヤの家の構造であつた。

南部アンダルシア地方の灼熱の太陽の下、照りつける光線を避けるためには町の街路が狭くてやつと小型の自動車一台が通れる位であるが、北部山の多い地方では雨も多く日光と熱とを求める必要があり窓も大きく日光を十分に室内に入れる様にしてある。

イスパニヤ各地の風景を知るには地方出身の作家のものを讀む必要がある。各作家が特に麗筆をもつて描寫した作品の中には旅行者の寸時の瞬間的な觀察以上の深いものを藏してゐる。

其の様な意味でガリシアの山の景色はガリシアの有名な女流作家エミリア・バルド・バサンが緑の樹木に被はれ濕潤な空氣、滴る緑の繁茂した中を流れる小川をもつたガリシアの山の風景を描いたものを、又サンタンデールの洲にあるピコ・デ・エウロパの描寫はホセ・マリア、デ・ベレダの作品ベ＝アス・アリバの不滅の頁の中から掬みとられることを。カステリヤの高原は詩人アントニオ・マチヤドや現代一流の作家アソリン、又ガブリエル・イ・ガランの詩によつてうたはれてゐる。アンダルシア地方の描寫は作家フアン・バレアの好んでとる題材であり、パレンシア

地方はblasco・イバニエスの作品によく取扱はれるところがある。

イスパニヤの各地方を一つづつ見ると、

昔日のガリシアの王國はイベリア半島の北西端にあり、緑濃き山塊で瑞西に似た感じのするところである。この地方の海はイスパニヤの最も荒い海で繪の様な小島や多くの岬や入江のあるところ。

再征服の搖籃の地アスチュリアの公領はカンタブリア海にあられる三角形の土地でサンタンデルの洲境にピコ・デ・エウロパの高峯が聳えてゐる。

カンタブリア海に面したビスカヤ、ギプスコアの二洲はバスクの地方で佛蘭西との國境に近く、ピレネーの連山が続いてゐる。私はサンタンデルからビルバオを通りサンセバスチアンに立寄りピレネーの山麓をナバラ洲の首府パンプロナに旅したがカンタブリア海岸には所々に城壁に取圍まれた海岸の城があり風光明媚なところであつた。

佛に境を接するナバラの昔の王國のあつたパンプロナ地方はピレネーの連山からエブロ河の流域に傾斜した美しい谿間で、この地方の4分の3は山と林で被はれ4分の1は平原で肥沃な土地となつてゐる。この地方ロンセスバレスの古戰場は佛國人の侵入を思はせるがサラセン人がこの山嶽地帯には侵入しなかつたところである。

高い國境地帯のアラゴンの雪に被はれた3000メートル以上の高峯、氷河無數の谿間でギリシヤ神話のチタン人の棲息所を思はすことが出来る地である。

平坦なアラゴン地方はエブロ河流域の肥沃な土地である。カスチリヤ地方と共に中央高原を形成してゐる。

カタルニアの公領はイベリア半島の北東端にあり古木鬱蒼たる山脈連山のピレネーの支脈が北から南へと連なり、二重になつた海岸山脈とイベリアの山系が連なり、其中にモンセーイの傳説の山と聖なるモンセラットの山がある。カタルニヤ地方の南をエブロ河が流れてゐる。ノゲラの河が大きい傾斜面をもつて歐羅巴でも有數な水力電氣の發電裝置を建設することを可能にしてゐる。

バルセロナはこのカタルニヤ地方の首府であるが、イスパニア第一の人口を擁し商工業も首府マドリイを凌ぎ、活氣のある都會である。イスパニア第一の港灣設備もあり、附近は織物業が盛んな所で全國の半分以上がこの地方で生産される。

バレンシアの王國は青い王國と呼ばれたところで庭園の様な感じのする緑濃き地方であつて、内地の山々から果樹園農場があり、美しい壁掛が下りてゐる様なところ。其の中にはオレンヂの美しい花が咲き色とりどりの花が咲き亂れてゐる。無數の運河、溝が水運の便と灌漑の利を兼ね

てゐる。地中海の岸に近くオチンデ實り、良米の生産されるところがある。私はムルシア、アリカンテ、バレンシアと旅を續けて美しいアルプフェラの沼澤地を眺めて一日を過したこともあり、思出多きバレンシアである。

バレンシアの南ムルシアはカスチリア地方、アンダルシア地方、バレンシア地方、の三つの特徴を兼ねた様な土地である。私はグラナダからアリカンテへと汽車の旅を續けてこのムルシアを通過したがセグラ及ムンドの河の流域は肥沃で、オレンジやレモンの枝もたわわに實るところ、ムルシアの果樹園の大きいものにも特長がある。

アンダルシア地方はイスパニヤの樂園とも呼ばれる大きい肥沃な土地である。全世界の魅力を集めるのもこのアンダルシアであり、カルメンの様な濃艶な女が踊るアンダルシア特有の舞踊や歌、皆これ南歐の灼熱の太陽の下に織り出される美しい繪の一片である。歐羅巴の最南端の大山脈シエラネバダの山々の雪を頂くところ、アルハンブラの宮殿にサラセン文化を思ふのもアンダルシア地方の風景であり、地中海岸マラガの市街に終夜踊り抜くマラガ娘の歌聲、漁火見ゆる海岸、カデイスの白い家の軒並、花咲き亂れる熱帯風の椰子や棕櫚の木が街路樹になつた町、コルドバのメスキタにマホメット教徒の盛大な宗教儀式を思ひ、コロンブスがイサベル女王の援助を求めて宿泊してゐたコルドバの旅宿では當時の苦心を追憶しても見た。大地主と貧しい人々といつた貧富の差もアンダルシアでは特に目立つ思いがする土地である。然し汽車の窓から見える踏切番の女が美しい大きい赤い石竹の花を髪に挿してゐるのを見て、流石はアンダルシアらしいと思はれるところである。

アンダルシア地方の北西にエストレマデュラ地方がある。サラマンカ洲の南に當りタホ河、グワディアナ河の流域であるが昔のルシタニアの中心地方である。この地方では道路、橋梁も昔のローマ時代のものが残存してゐる。肥沃な地もあれば荒涼たる土地もある。廣大な牧草地に放牧された羊の群が多いことがこの地方の特徴である。

昔のレオン王國はアスチュリア王國の歴史的地理的延長と見ることが出来る。山に取圍まれた高原を持つてゐる。「サラマンカ」「サモラ」「バリアドリイ」「バレンシア」「レオン」といつた州を包含してゐるデュエロ河上流地帯である。パンの地、葡萄酒の土地、野原の地といつた名前のある程、小麥や葡萄酒の産出が多く中央高原の西、葡萄牙と境する典型的な高原地帯である。

グワダラマ山系を中心にして北方をカスチリヤ・ラ・ビエハ（舊カスチリヤ）と呼ばれ、南部をカスチリア・ラ・ヌネバ（新カスチリア）と呼ばれてゐる。

カスチリア・ラ・ビエハ（舊カスチリア）は地理的な統一性のない歴史的な地方である。特徴

は廣漠たる高原である。カンタブリア山脈、セントラル山脈及イベリアン山脈に周邊を取圍まれてゐる。其の中には2000メートル以上の山が聳えてゐる。ウルビオン及グレドスの山系は特に登山家が興味をもつところである。松の木の林、エンシナの林、樺の木の林が連なつてゐる。カスチリア地方からデュエロ河とエプロ河が流れ出てゐる。

カスチリア・ラ・ヌネバ（新カスチリア）は中央高原の南東部の地方で殆んど完全な自然の地域でマドリイがこの地にある。マドリイの南50キロメートルのところにグワダラマ山脈がある。夏はマドリイの人々の避暑地であり、冬はウインタスポーツの盛んな場所、海拔1150メートルの町アビラは中世の城壁にかこまれた有名なところでグワダラマ山脈中にある。又エスコリアルルの宮殿と僧院もこの山の麓にある。

ドンキホーテの巡路として世界的に知られてゐるのはラ・マンチャの地である。私はルタ・デ・ドンキホーテ（ドンキホーテの巡路）の旅を朝早くマドリイを出發して夜2時過ぎまでもかゝつて通つたこともあるが、昔ながらの風車が丘上に廻つてゐるのを見ては、昔のセルバンテスの時代を思い出して見たこともあつた。

地中海にあるバレアレス群島は50程の島嶼であるが、六島にのみ人が住んでゐる。マデヨルカの島は太陽の島と呼ばれ、美しい景色と四時春の様な氣候に遊覧客が多いところである。

大西洋中のカナリナ群島はアフリカ大陸に近く七つの大きい島と他に小島がある。

私は南米への途次このカナリア群島のラスパルマスに立寄り、有名なベレス・ガルドスの使用してゐた本箱、机や椅子、寢台等を陳列した博物館を見て一日を過したことが思い出される。

英國の有名なスペイン語學者アリソン・ピアス（Allison Peers）の Spanish Now と言ふ本には、歐羅巴の文明は今やアメリカ合衆國に移つた幾世紀かの後にこのアメリカの文明は南米に移るであらうと豫言してゐる。將來の南米を知る意味でその母國イスパニヤに就いて、又母國と中南米諸國との連繫に就いて研究すべき多くの重大な問題がある。これは他日に譲ることにする。